



## モヨウとカタチ

Takehiro Ito  
Kodo Kiyooka  
Maho Harada

美しい模様と形。そんな器を集めました。伊藤丈浩さんの描く美しいスリッパウェア、ハラダマホさんによる、パターンが楽しい練り上げ、そして今回は新たに滋賀県：信楽焼の作家 清岡幸道(きよおか こうどう)さんの器も取り扱います。信楽のイメージを一新する器を制作されている清岡さん。それぞれ個性的な作品を是非ご覧ください。

### 【参加作家】

清岡幸道/きよおか こうどう (信楽)、伊藤丈浩/いとう たけひろ (益子)、ハラダマホ (練り上げ)

※各作家さんの在廊日程はメトロクスWEBサイトをご確認ください <http://metrocs.jp/n-crafts/>

### 【会場・会期】

#### □メトロクス東京

〒105-0004 東京都港区新橋6-18-2 TEL:03-5777-5866

2月4日(土)～2月18日(土)

OPEN / 平日 10:30～19:00 土曜 11:00～19:00

日・祝 12:00～19:00

※会期中無休

#### □メトロクス札幌

〒064-0820 札幌市中央区大通西26-1-18 円山アーク1F TEL:011-615-8777

3月2日(金)～3月14日(水)

OPEN / 12:00～20:00

※木曜定休

### プレゼント

3作家の器を含む5,250円以上お買上げの先着30名様に  
小さな信楽焼きのためきをプレゼント!



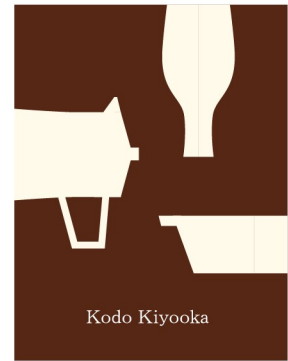
※「他を抜く⇒他抜き」という  
語呂から商売繁盛の意味で  
重宝されています

※イラストはイメージです

### 清岡 幸道 (きよおか こうどう)

大阪芸術大学で陶芸を専攻。滋賀県立陶芸の森研修生を経て製陶所にてデザイン・製作などを担当した後、独立しました。元来耐火性に富み、可塑性とともに腰が強いといわれる信楽の土と釉薬を用いて作られている器は、従来の信楽焼のイメージを覆すシャープなフォルムが特徴です。力強さと繊細さを併せ持った作品は評価も高く、個展、グループ展など国内外で精力的に活動を行っています。これからの信楽を代表する作家の一人として活躍が期待されています。

- 1969 東京生まれ
- 1993 大阪芸術大学工芸学科陶芸専攻卒業
- 1996 滋賀県立陶芸の森研修生となる
- 2008 製陶所勤務後独立  
陶林春窯(多治見)個展
- 2010 SHIZEN(東京)、うつわクウ(芦屋)、yido gallery(ソウル)にて個展
- 2011 松屋銀座にて個展



Kodo Kiyooka

### 伊藤 丈浩 (いとう たけひろ)

1977年 千葉県銚子市生まれ。21歳のときから焼き物を始め、益子の製陶所で働いた後、半年ほど渡米。各地の陶芸家を訪ねながら旅をします。帰国後、日本各地の窯業地を見聞し、2006年に益子で独立。水と粘土を混ぜた泥漿(でいしょう)で、平面の土の上に描く線によって現れる独特な模様的魅力を感じスリッパウェアの製作に傾注します。地域の原料を出来る限り使い、モダンさと素朴さをあわせ持った、新たな益子焼の姿を提唱しています。

- 2006 独立し、益子町城内坂に工房を構える
- 2007 宇都宮「ギャラリー芙蓉」にて 鈴木 稔氏と二人展
- 2008 益子「G+OO」にて 個展 開催  
デンマーク、スウェーデンにおいてワークショップに参加
- 2009 東京:茗荷谷「コントラストガレリア」にて"GOOD MORNING,TOKYO"開催
- 2010 東京:茗荷谷「コントラストガレリア」にて"デンマークと益子をつなぐやきもの
- 2011 メトロクスにて「鈴木稔と伊藤丈浩の器」開催

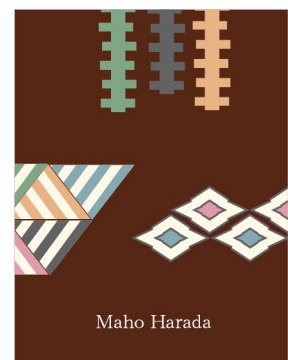


Takehiro Ito

### ハラダマホ

有田窯業大学卒業後、会田雄亮研究所に入所。その後出身地の熊本県にて窯を設立し、独立します。陶器の中でも根気が要るといわれる「練り上げ技法」。色土を幾重にも積んで模様を作って行くため、接着面が馴染むのに1ヶ月~3ヶ月の寝かしを必要とします。そのような過程の中、彼女の作り出す独特な幾何学模様はより高度な技術と手間を要します。パステル調の色合いや、白黒のシンプルなパターンなど、軽やかでやわらかい表情が支持されています。

- 1999 有田窯業大学卒業後、会田雄亮研究所入所
- 2001 熊本県にて設窯し活動開始
- 2003 草堂(東京:駒場)にて初個展
- 2009 「第20回日本陶芸展」第三部実用部門にて入選



Maho Harada